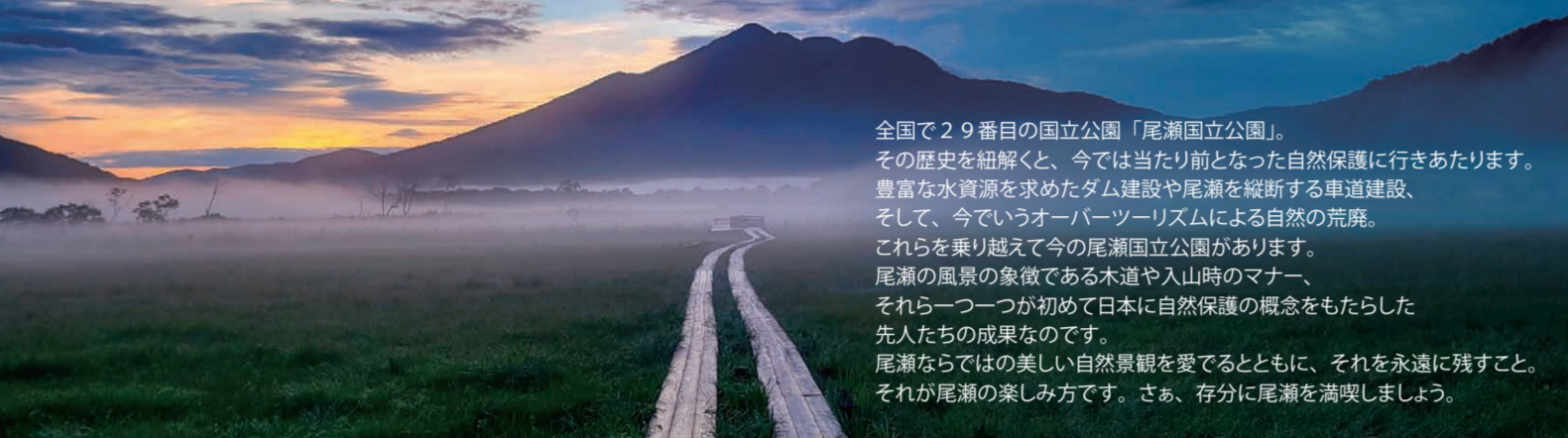


日本の自然保護発祥の地 尾瀬国立公園



全国で29番目の国立公園「尾瀬国立公園」。その歴史を紐解くと、今では当たり前となった自然保護に行きあたりず。豊富な水資源を求めたダム建設や尾瀬を縦断する車道建設、そして、今というオーバーツーリズムによる自然の荒廃。これら乗り越えて今の尾瀬国立公園があります。尾瀬の風景の象徴である木道や入山時のマナー、それら一つ一つが初めて日本に自然保護の概念をもたらした先人たちの成果なのです。尾瀬ならではの美しい自然景観を愛でるとともに、それを永遠に残すこと。それが尾瀬の楽しみ方です。さあ、存分に尾瀬を満喫しましょう。



尾瀬ハイキングガイド

尾瀬保護財団とは

尾瀬保護財団は、尾瀬国立公園をフィールドとして「尾瀬での体験と感動を、自然を守る力に変える」をミッションに掲げて活動する公益財団法人です。平成7年の設立以来、関係機関と連携しながら、入山者へのマナー啓発、ビジターセンターの管理運営、ボランティアの育成支援、野生動物対策、外来植物対策、尾瀬総合学術調査の事務局運営など、主にソフト面から尾瀬の保護と適正利用を促すための活動に取り組んでいます。



尾瀬ボランティアによる入山口啓発活動



ビジターセンター職員による自然観察会



オオハシソウワケ除去作業

二つのビジターセンター

尾瀬保護財団では尾瀬内二つのビジターセンター(VC)の運営業務を受託し、情報発信、巡回、インタープリテーションなど、尾瀬の自然を守るための活動を行っています。職員が常駐し、季節ごとの見どころや登山道状況等も紹介しています。



尾瀬沼 VC (設置者:環境省)
TEL:090-8137-6006 (7:30~16:00)
尾瀬沼東岸に位置し、長蔵小屋、尾瀬沼ヒュッテと隣接しています。現建屋は3代目で、令和3年に供用開始しました。



尾瀬山の鼻 VC (設置者:群馬県)
TEL:070-8708-2752 (7:30~16:00)
鳩待峠から1時間、至仏山の麓である山ノ鼻地区、尾瀬ヶ原の玄関口にあります。

ビジターセンターでできること

屋外での観察会
季節の見どころや、自然観察のヒントをお伝えします。

夜のスライドショー (宿泊者向け)
VC内レクチャールームで尾瀬の自然、歴史、環境保全などを解説します。

館内展示
尾瀬で見られる植物や動物の紹介、環境保全の取組や尾瀬の歴史などを紹介しています。

※観察会・スライドショーの実施日及び時間は、VC毎に異なります。詳しくはお問合せください。



至仏山 日本百名山 2,228m
尾瀬では最古の山で、尾瀬を象徴するミズバショウ咲く風景(本紙表紙)として多くの人に知られる至仏山。他の山々が火山活動によってできたのに対して、至仏山は隆起してきた山で、二億年前の地質からできています。蛇紋岩という特殊な石で形成されているため、ホソバヒナウスユキソウなどの希少な高山植物がみられます。



燧ヶ岳 日本百名山 2,356m
東北以北の最高峰であり、尾瀬を代表する山の一つである燧ヶ岳。約35万年前の最初の噴火によって只見川が堰き止められたことにより、日本最大の山岳湿地である尾瀬ヶ原が誕生したといわれています。登山道が3つあり、山頂が柴安岳、姐喜などの五峰より成るため、見る場所による山容の変化も楽しめます。



会津駒ヶ岳 日本百名山 2,133m
稜線付近に大草原が広がり、ハクサンコザクラ、ワタスゲ、イワイチョウなどの豊富な高山植物が見られることから、「天上の楽園」と称される会津駒ヶ岳。山名は残雪の時期に現れる黒い駒(仔馬)に由来するとされています。駒の小屋から大津峠峠の稜線では、燧ヶ岳の後方に至仏山が眺められます。

尾瀬ボランティア

環境美化活動等を行う「尾瀬ボランティア」が活動しています。

主な活動

プロテクター(自然保護)的活動
入山口啓発活動
尾瀬利用時のマナーやルールの呼びかけ、情報提供
巡回・清掃活動
開花状況や登山道の状況等の情報収集、ゴミ拾い
自然環境保全活動
外来植物除去作業、植生保護柵設置・撤去

インタープリター(自然解説)的活動
自然解説活動
VC周辺での案内や自然解説
地域活動
お住まいの地域での尾瀬の自然や保護活動の紹介



植生保護柵設置



尾瀬自然解説ガイド
所定のコースをご案内する有償のボランティアガイドです。山の鼻 VC・尾瀬沼 VC を起点とした複数のコースがあります。

コース例
山の鼻 VC ~ 牛首分岐 ~ ヨツビ橋 (約2時間)
尾瀬沼 VC ~ 大江温泉 ~ 尾瀬沼 VC (約1時間)

ごみ持ち帰り運動発祥の地

昭和40年代、自然保護運動の高まりによって尾瀬が注目され、入山者の増加とともにたくさんのごみが捨てられていきました。当時、尾瀬内には至る所にゴミ箱があり、山小屋関係者で片付けていましたが、増え続けるごみに処理が追い付かず問題となっていました。『ゴミ箱があるからごみを捨てるのだから、ゴミ箱を撤去しよう』昭和47年、逆転の発想でごみ持ち帰り運動は始まりました。今では落ちていくごみはほとんど見られません。これは、日本で初めての試みと言われており、尾瀬がごみ持ち帰り運動発祥の地とされています。

写真左:ごみ運搬(現代)
写真右:ごみ箱から溢れるごみ(当時)



尾瀬国立公園への行き方

高速乗合バス 尾瀬号
バス夕新橋より尾瀬(片品村・戸倉・大清水まで)への直行便はこちらから

尾瀬に行く準備

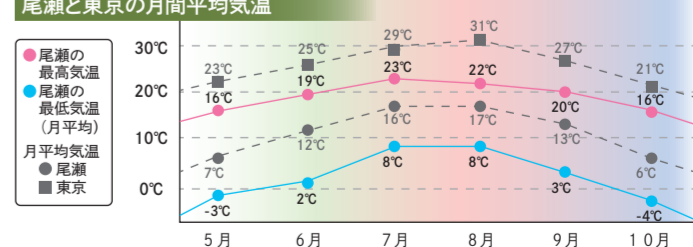
安全な尾瀬登山のために必要な装備をまもりました。しっかりと準備をして尾瀬を楽しみましょう。

- 帽子** つばのあるもの。風に飛ばされないようにひもを付けよう。
- 手袋** 薄手でやわらかいもの。
- ズボン** できるだけ長ズボン。デニム生地は濡れると重くなり、乾きにくいので向き。
- 登山靴** 足首を保護してくれるもの。



尾瀬ごよみ

ミズバショウ
ワタスゲ(果穂)
ニッコウキスゲ
ヒツジガサ
草もみじ
木々の紅葉



尾瀬保護財団の活動は、皆様の寄付に支えられています